

国際 NGO セーブ・ザ・チルドレン
— ポスト 2015 年開発目標への提言 —
不平等・格差是正への優先的な取り組みで、今世代での貧困の根絶は可能

子ども支援専門の国際組織であるセーブ・ザ・チルドレンは 28 日、新報告書「未来への枠組み (Framework for the Future)」を発表し、今の世代で貧困に終止符を打つための、野心的で達成可能な解決への道筋を提示しました。

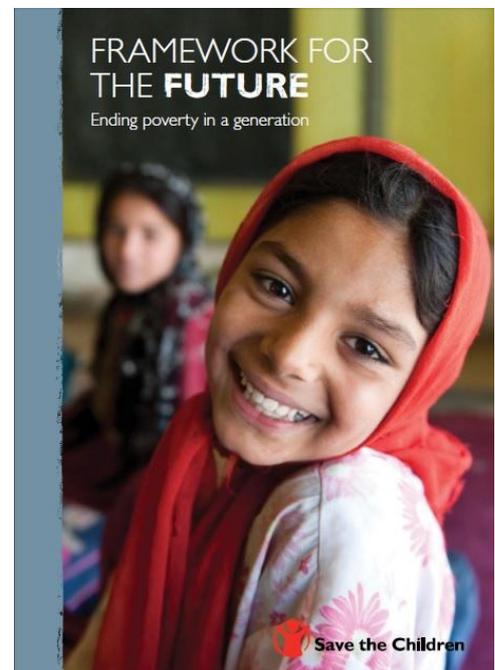
現在、ニューヨークでは国連加盟国が国連ミレニアム開発目標 (MDGs) の後継枠組みとなる持続可能な開発目標 (SDGs) に関する議論を継続しています。本報告書では、貧困を永遠に根絶するための 12 の目標と、それに対応するターゲットを提示しながら、人類・地球の持続性・プロセスに焦点を当て、2030 年までにすべての子どもの生存と、健やかに成長する機会が保障されている世界の未来像を示しています。

現在、世界では毎日 1 万 8 千人の 5 歳未満児が亡くなっており*1、子どもの 1/4 は自分自身または母親の栄養不良が原因の発育阻害に陥っています。また、5,700 万人の子どもが学校へ通っておらず、学校へ通っている子どもでも、その多くが学習できていません。

しかし大きな野心があれば、国際社会は今世代の間に、子どもたちが予防可能な原因で亡くなることのない、空腹のまま夜の眠りにつくことのない、教育を受けられずに大人になることのない世界を実現できるのです。

極度の貧困をなくすには、世界の指導者が平等の実現を優先課題とする必要があります。セーブ・ザ・チルドレンの今回の報告書は、持つ者と持たざる者の格差を縮小するための中間ターゲットとしての「踏み台ターゲット」の考え方を取り入れ、「すべての社会層・所得層においてターゲットが達成されなければ、そのターゲットは達成とは見なされない」という原則のもとに、不平等・格差の問題に正面から取り組む方法を提案しています。

「私たちの世代は、人類史上はじめて極度の貧困を根絶できる可能性を持っています。しかし、不平等の問題に対して新たな発想で行動しなければ、その可能性を逃してしまうでしょう。今こそもっと大胆になる時です。セーブ・ザ・チルドレンは、新報告書『未来への枠組み』の中で、各国政府に対して最も社会から取り残された人びとを優先し、すべての子どもの機会平等の実現にコミットするよう要請しています。」セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン政策提言マネージャー堀江由美子



報告書では、不平等、ジェンダー、子どもへの暴力、ガバナンスの透明性確保など、現行の国連ミレニアム開発目標（MDGs）の枠組みでは取り組みが不十分だった分野に対する提案を行うと同時に、MDGs を確実に達成することを求めています。

2013年1月に発表したセーブ・ザ・チルドレンの報告書「私たちの世代で貧困に終止符を（Ending Poverty In Our Generation）」を補完する形で発刊された本報告書は、ポスト2015の国際的議論に引き続き貢献するためのものであり、国連加盟国が持続可能な開発目標（SDGs）を策定する中で検討されるべき目標とターゲットを掲げた、緻密に組み立てられた枠組みを提示しています。

*1 State of the World's Children, 2014. Hunger and education stats from MDG report, 2013.

■ セーブ・ザ・チルドレンについて

1919年設立。子ども支援の世界的リーダーとして、国連経済社会理事会（UN ECOSOC）のNGO最高資格である総合諮問資格（General Consultative Status）を取得。世界30カ国の独立したセーブ・ザ・チルドレンがパートナーシップを結ぶ国際組織で、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは日本のパートナーとして1986年に設立されました。すべての子どもにとって、生きる・育つ・守られる・参加する「子どもの権利」が実現されている世界を目指し、現在約120の国と地域で活動しています。

本件に対するお問い合わせ

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 広報 担当 田代範子
TEL: 03-6859-0011 E-mail: tashiro.noriko@savechildren.or.jp